

基本目標 5

にぎわいと新たな活力を 生み出すまち

産業振興

時代の変化に対応できる柔軟な経営感覚と新しいものに挑戦していく経営意欲の醸成を図り、人材の育成や起業・新分野進出への支援、企業誘致、6次産業化に向けた農業振興や各種基盤整備の推進に努めます。

また、既存の地域産業や観光資源を活かしながら、産業の多様な交流や連携を図り、新たな産業の創出による、にぎわいと活力に満ちたまちを目指します。

- (農 林 業)

施策 **5-1** 安全で安心な作物を生産する農業を営み、美しい森林をつくるまちづくり 98
- (商 工 業)

施策 **5-2** 商工業の振興でにぎわいと活気をもたらすまちづくり 101
- (産 業 振 興)

施策 **5-3** 新たな産業創出の可能性を広げるまちづくり 103
- (労 働 環 境)

施策 **5-4** 安心して働くことができるまちづくり 104
- (観 光)

施策 **5-5** 人々に癒しと安心感をもたらす、魅力あふれるまちづくり 105

施策 **5-1** 農林業
安全で安心な作物を生産する農業を営み、美しい森林をつくるまちづくり

■目標

担い手の育成・確保と農業基盤の整備を推進し、農産物などの生産性を高め、農業経営の安定化を図るとともに、森林が持つ多面的機能を発揮させることで美しい森林づくりを進めるまちを目指します。

■現状と課題

本市の農業は、地域経済を支える重要な基幹産業となっています。主要農作物は米が中心ですが、トマト・キュウリ・玉ねぎの生産が好調で、品質向上が市場に受け入れられ「砂川ブランド」としての評価が広がり、今後の生産性向上と販路拡大が期待されています。

しかし、一方では、農業者の高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加、さらには、輸入農産物の増加による価格の低迷や資材等の生産コストの上昇による農業所得の低下などの問題が表面化しているほか、食の安全・安心の確保や環境保全に配慮した取り組みが一層求められるなど、農業経営をめぐる環境が大きく変化しつつあります。

これらの現状を踏まえ、農業が職業として選択し得る魅力とやりがいのあるものとなるよう、効率的かつ安定的な農業経営体と担い手の育成を図る必要があります。

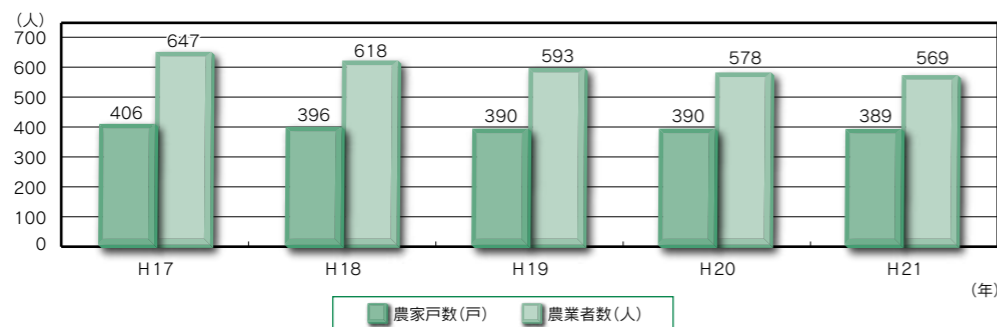
また、農地の生産性を高める基盤整備に加え、水資源のかん養や自然環境の保全などの多面的機能を発揮させるため、農地の保全や農村環境の整備などに取り組む必要があります。

さらに、農業者が農産物の生産だけではなく、製造・加工や流通・販売を一体的に行うことで、新たな付加価値を生み出す[※]6次産業化の取り組みを推進し、新しい農業の展開を図る必要があります。

森林については、森林所有者等の高齢化や林業に対する意識の低下から適切な保育や間伐などの整備が進まず、森林の持続的な整備・保全が危ぶまれる状況となっています。

このことから、林業や木材産業等の発展を促すとともに、二酸化炭素の吸収などの多面的機能を維持していくため、森林の必要性や重要性を市民に理解してもらう取り組みを進めながら、地域に応じた望ましい森林の姿へ誘導を図る必要があります。

農家戸数と農業者数の推移



(資料：新砂川農業協同組合)

用語解説

※ 6次産業化……農業（第1次産業）などで生産したものを、農業者などが自ら素材として加工（第2次産業）し、流通・販売（第3次産業）するなど、事業を一体的に行い、経営の多角化を図ること。

■基本事業とねらい

① 農地等の基盤整備の推進

食料自給率の向上と農産物の効率的で安定的な生産を図るため、農地や用排水路等の基盤整備を推進します。

指標名	単位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
基盤整備面積	(延)ha	483.0	497.0	512.0

* 農業の生産性を向上させるための農地整備や用排水路整備等を実施した農地の延べ面積

② 農村環境の保全

農産物の生産をはじめ、水資源のかん養や自然環境の保全などの農業・農村の持つ多面的機能を発揮させるため、農地や農業用水利施設等の資源の保全を図るとともに、農村環境を守るべく有害鳥獣対策の強化を図ります。

指標名	単位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
有害鳥獣による被害面積	ha	23.3	12.0	8.0

* 有害鳥獣（エゾシカ、アライグマ等）により農作物被害を受けた農地の面積

③ 農業経営の安定

農業生産活動を支援し、農産物の生産性を高め、経営不振や離農などを減らすとともに、農業経営の安定化を図ります。また、経営の多角化により生じる付加価値を農業経営に取り込む6次産業化を推進します。

指標名	単位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
農業産出総額	百万円	1,328	→	→

* 新砂川農業協同組合の取扱農業産出総額

④ 担い手の育成と確保

経営規模の拡大や生産性の向上、後継者不足の解消、農地の保全に向け、認定農業者（法人を含む）や新規就農者の育成・確保に努めます。

指標名	単位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
認定農業者数 ^{*1}	(延)人	70	80	90
新規就農者数 ^{*2}	(延)人	8	18	28

*1 農業経営基盤強化促進法に基づく農業経営改善計画の認定を受けた農業経営者及び農業生産法人の延べ人数

*2 新たに農業に就業した延べ人数

⑤ 農地の流動化による効率的な農業の推進

優良農地の確保と保全、流動化による有効活用に努め、耕作放棄地の発生を防ぐとともに、安全・安心な農産物を効率的に生産できる体制を整備します。

指標名	単位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
耕作放棄地解消面積	(延)ha	-	7.0	12.0

* 耕作されなくなった農地に農作物等を作付し、再利用した農地の延べ面積

⑥ 森づくりの推進

水源の保全や自然災害を防ぐなど、森林の持つ多面的機能を発揮させ、地球温暖化の防止も図るため、森林整備計画に基づいた美しい森林づくりを推進します。

指 標 名	単 位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
施業 (下刈、間伐、造林) 面積	(延)ha	15.99	47.00	93.00

* 森林を育成するために行う作業 (施業) を実施した森林の延べ面積



関係個別計画

- ・砂川市農業振興地域整備計画
- ・砂川市酪農近代化計画
- ・砂川市農業経営基盤強化促進基本構想
- ・砂川市森林整備計画
- ・砂川市鳥獣被害防止計画



施策 5-2 商工業 商工業の振興でにぎわいと活気をもたらすまちづくり

■ 目標

市内企業の支援や新たな企業立地を促進するとともに、消費者ニーズに対応した商業の振興を図ることで、にぎわいと活気あふれるまちを目指します。

■ 現状と課題

本市の商業は、経済活動やコミュニティの核として市街地を中心に発展してきましたが、急速に変化する社会・経済情勢の中、人口減少や高齢化の進行、近隣市における大型店の進出などにより中心市街地の活力が低下してきています。このような中、本市では、平成19年8月に「中心市街地活性化基本計画」を策定し、「にぎわいの創出」、「まちなか居住の促進」、「商店街の活性化」を基本方針として、まちの再生を図っています。

第5期総合計画では、市民が市街地において、日常生活需要を満たすことができるコンパクトなまちづくりを推進してきましたが、引き続き、より充実したものとしていくためには、商店街の活性化が求められています。

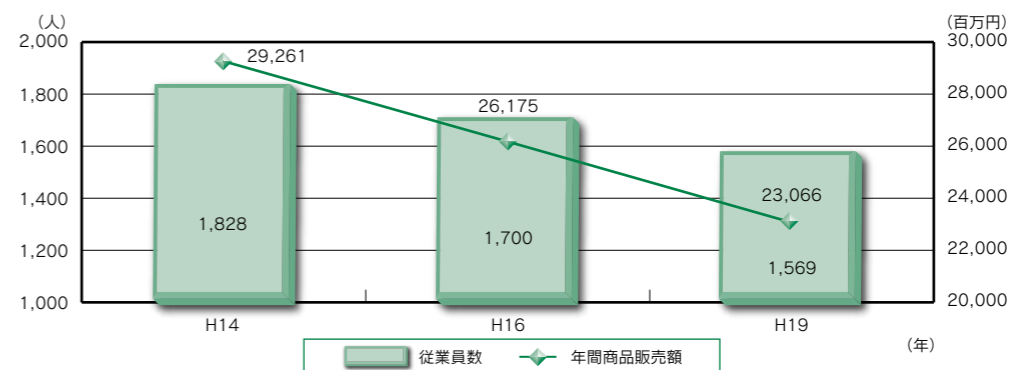
このことから、各店舗が活力ある商店街づくりに努めるとともに、地域交流センターの利用者や市立病院の来院者などを、まちなかへの回遊につなげる取り組みを推進し、まちなかの活性化を図っていく必要があります。

また、市内菓子店が連携し、砂川のお菓子の魅力でまちのイメージアップと市内外消費者の誘致化を目的とする「すながわスイートロード事業」を実施したことにより、知名度アップが図られ、多くの買い物客が訪れていることから、この事業を通じて培った商工業団体等の連携機能をより一層強化し、当該事業による中心市街地への集客を購買行動に結びつける必要があります。

工業については、地域の経済や雇用に大きな役割を果たすことから、新規企業・既存企業の企業立地を促進することにより、事業所数及び従業員数の増加を図り、地域の活性化を目指す必要があります。

このことから、本市の利便性や将来性のPR、企業への優遇措置の充実などにより、他地域との差別化を図りながら、企業誘致活動を積極的に展開するとともに、既存企業の活性化や新製品開発の支援、さらには、起業の促進などを図る必要があります。

小売業の従業者数及び商品販売額の推移



(資料：商業統計調査)

■基本事業とねらい

① 中小企業の経営安定化

商工会議所などの関係団体との連携を図り、中小企業の経営基盤の強化と企業体質の改善を支援し、地域経済の活性化を促進します。

指 標 名	単 位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
市内事業所数	事業所	902	902	902

* 市内における全事業所数（うち官公庁除く）

② 商店街のにぎわいの創出

接客技術の向上やこだわりの品揃え等、楽しく満足して買い物ができるような個性的で魅力ある商店街づくりを支援するとともに、中心市街地のにぎわいの創出に向けた取り組みを進めます。

指 標 名	単 位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
小売業年間商品販売額（中心市街地区域） ^{*1}	百万円	15,202	16,200	16,200
まちなか平日通行量 ^{*2}	人	3,228	4,400	4,400

*1 中心市街地区域（202ha）内の小売業年間商品販売額

*2 中心市街地区域（202ha）内における歩行者・自転車のまちなか平日通行量

③ 企業立地の促進

PR活動や立地企業に対する支援策を充実し、誘致を促進することで、新たな雇用の場の創出と地域経済の活性化を図ります。

指 標 名	単 位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
誘致・事業拡大企業数	(延)社	—	8	15

* 市内外からの誘致企業及び既存企業による事業拡大を行った延べ企業数



関係個別計画

- ・砂川市中心市街地活性化基本計画
- ・砂川市TMO構想

施策 5-3

産業振興

新たな産業創出の可能性を広げるまちづくり

■目標

異業種間の連携や交流を図り、地域資源や地域産業を活かした製品づくりや共同研究などを通じて、地場産業を活性化させるまちを目指します。

■現状と課題

人口減少や高齢化、景気の低迷による個人所得の減少や企業収益の悪化などにより、地域経済や地域雇用などが疲弊していく中で、地域経済を発展させるための新たな手法として、これまでも異業種連携に取り組んできましたが、目に見えた成果が生まれてきませんでした。

そのような中、平成20年に農商工等連携促進法が施行され、産業間の連携により地域経済を活性化する法的枠組みが整備されたことから、本市においても、農業及び商工業関係団体代表者による意見交換などが積極的に行われるなど、各種産業の事業者や団体等の連携が深まりつつあります。

このことから、今後は、異業種連携をさらに促進していくため、各事業者がお互いに協力し合う意識を高めていく必要があります。

また、開発した商品を安定的に供給するためには、一定規模の原材料や製造施設を確保することから、初期投資に対する支援などが必要です。

農家戸数、商業事業所数及び工業事業所数の状況

農家戸数（戸）	商業事業所数（件）	工業事業所数（件）
389	198	45

（資料：新砂川農協、商業統計調査、工業統計調査）

※農家戸数は、新砂川農協への平成21年の数値

※商業事業所数は、平成19年商業統計調査の数値

※工業事業所数は平成21年工業統計調査の数値

■基本事業とねらい

① 異業種連携の促進

各種産業の事業者や団体等の連携や交流を深め、農商工ネットワークなどによる研究開発やものづくりを促し、地域ブランドの創出と新たな産業の振興を図ります。

指 標 名	単 位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
異業種連携取り組み数	(延)件	—	6	11

* 異業種間における事業連携の取り組みが実現した延べ件数



関係個別計画

- ・砂川市中心市街地活性化基本計画

施策 5-4 労働環境 安心して働くことができるまちづくり

■目標

雇用の機会を確保し、安心して働くことができる労働環境の充実したまちを目指します。

■現状と課題

本市の雇用環境は、急激な景気後退に伴う雇用の不安定化や職種不足から厳しい情勢にあり、若年労働者の地元定着化や女性労働者の地位向上など、生産人口の増加と定着化へ向けた対応が課題になっています。

労働者の増加と定着化を図るためには、雇用側である企業の基礎体力の強化が重要なことから、引き続き、市内の企業への支援策の充実を図っていく必要があります。

また、既存産業はもとより、情報関連産業や高齢社会に対応した福祉関連産業、新たな病院を核とする医療関連産業、近年、意識が高まりつつある環境関連産業など、多様な産業の振興に努め、就業の場の確保や雇用機会の拡大を進めるとともに、労働者が安心して働ける労働環境づくりを促進する必要があります。

■基本事業とねらい

①雇用の安定

多様な産業の振興により安定した雇用機会の創出を進め、地元で就職できる環境づくりを図ります。

指標名	単位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
季節労働者数	人	354	326	296

* ハローワーク公表による季節労働者数

②労働環境の充実

労働者の福祉の充実や働きやすい労働環境を促進するため、*共済会制度などを通して、労働者が安心して働く事ができる環境づくりを進めます。

指標名	単位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
共済会加入事業所数	事業所	88	88	88

* 砂川市勤労者共済会へ加入している事業所数

用語解説

* 共済会制度……組合員等が共同で出資し、助け合う制度。単独では福利厚生事業が実施できない中小企業の事業所が集まり、共同で各種の福利厚生事業を行う勤労者のための制度。

施策 5-5 観光 人々に癒しと安心感をもたらす、魅力あふれるまちづくり

■目標

地域の多彩な観光資源を活かし、訪れる多くの観光客に癒しと安心感をもたらす、魅力的なまちを目指します。

■現状と課題

本市には、道央自動車道の「砂川ハイウェイオアシス館」や、これに隣接した「北海道子ども国」などの観光拠点があり、年間180万人を超える観光客が訪れています。これは、「旭山動物園」への観光の際に立ち寄る「砂川ハイウェイオアシス館」の入館者が大きく影響していますが、市外からの観光入込客数は、空知管内で上位となっています。

また、商業振興策として「すながわスイートロード事業」を実施したことにより、本市のお菓子を目当てとした観光バスツアーが組まれるなど、新たな観光資源も生まれています。

しかし、観光客のほとんどが日帰り客であり、宿泊客は全体の2%に満たない状況にあるため、滞在型観光の企画立案や近隣市町との連携による各地域の観光資源を組み合わせた広域観光ルートの開発をはじめ、*ホスピタリティの充実などまちぐるみでの受け入れ態勢の構築、地元農産物や地域資源を活用した新たな観光資源の開発など、積極的な事業展開を推進する必要があります。

さらに、観光客が求める観光情報を的確かつタイムリーに発信するため、観光パンフレットやインターネットを活用した情報提供の充実と関係団体の連携が必要です。

観光入込客数の推移

(単位：千人、%)

区分	ハイウェイオアシス館	左記以外	合計	前年比
平成17年度	1,127.8	260.3	1,388.1	—
平成18年度	1,523.1	446.0	1,969.1	141.9
平成19年度	1,426.6	528.3	1,954.9	99.3
平成20年度	1,418.3	529.4	1,947.7	99.6
平成21年度	1,312.2	560.9	1,873.1	96.2

(資料：経済部商工労働観光課)

用語解説

* ホスピタリティ……観光客が安心して快適に観光できるように、地域の人々がおもてなしの心で接し、観光客を温かく迎えること。

■基本事業とねらい

①観光資源の充実

自然や歴史、産業などから観光資源の掘り起こしを進め、地域の特性を活かした観光振興を促進します。

指 標 名	単位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
市全体の観光入込客数*1	千人/年	1,873	1,926	1,970
砂川ハイウェイオアシス館以外の観光入込客数*2	千人/年	561	577	590

*1 北海道観光入込客数調査における市全体の年間観光入込客数

*2 北海道観光入込客数調査における市全体の年間観光入込客数のうち、砂川ハイウェイオアシス館以外の年間観光入込客数

②心のこもったおもてなしの充実

観光客に癒しと安心感を与えられるよう、もてなしの心をはじめとする受け入れ態勢の充実を図ります。

指 標 名	単位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
ボランティア観光ガイドを行うツアー誘致数	回/年	13	16	16

* ボランティア観光ガイドを活用した観光ツアーの誘致件数

③情報発信の充実

観光客誘致のため、あらゆる宣伝機会や情報媒体を活用し、「行きたい」、「見たい」と思われるように観光情報発信の充実を図ります。

指 標 名	単位	現状値 (H21)	中間目標値 (H27)	最終目標値 (H32)
観光（商工労働観光課）ホームページへのアクセス数*1	件/年	8,251	8,500	8,700
観光パンフレット配置施設数*2	箇所	25	182	182

*1 砂川市ホームページにおける観光関連情報へのアクセス件数

*2 観光パンフレットを配置した空港や道の駅等の施設数



関係個別計画

- ・砂川市中心市街地活性化基本計画